



DIST.NO.2530

ROTARY CLUB OF FUKUSHIMA

WEEKLY REPORT

2013-14 年度 福島ロータリークラブ会報 vol. 12・13

合併号

■例会日/2013年9月26日(木) ■開会点鐘/12:30
■会場/ホテル「辰巳屋」8F ※第12回例会

■ 9月は「新世代のための月間」です

福島ロータリークラブホームページ
<http://www.f-rotary.com/>

【事務所】福島市栄町5の1 ホテル辰巳屋 7F 【例会日】木曜日12:30 【例会場】ホテル辰巳屋 8F
【TEL】024-524-1010 【FAX】024-524-1011 【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp



第12回 会長挨拶

2013-14年度 会長
紺野 晴郎

今日は市内のマスコミ5社の報道部長様方との懇談会を開催いたしました。2002年の8月に河田亨会長のもと第一回目を行い、緊張の中にも実り多い懇談会となって今につながっております。

ゲストの方々には風評被害に苦しんでいる福島と復興道半ばの現況を一人ひとりが多くの友人知人に伝えることが大震災と放射能汚染を風化させない手段であると述べられておりました。

また、ロータリーは情報発信力が乏しく、2530地区の事務局が毎年変わるのでどこへ連絡してよいかわからなくなるといっておられました。ガバナー事務所の固定化も考える時かもしれませんね。

会員からは各ロータリーがバラバラでなにをしているかわからない、との意見も出されました。

なお、マスコミ懇談会での会長挨拶を次ページにて掲載いたしますのでご参照ください。

猪苗代湖水草除去作業報告



去る9月28日(土)、猪苗代湖天神浜にて水草除去作業が行われました。当日は福島学院大学 RAC・福島東稜高校 IAC の多数の皆様にも参加頂き、ロータリアン含む47名の協力のもと実施されました。



渡邊 又夫 会員

例会 次第

11:00-12:20 **マスコミ懇談会**

・報告 広報マルチメディア・雑誌小委員会
佐藤 武彦 小委員長

地区セミナー報告

・国際奉仕セミナー報告 菅野 裕一 会員
・米山奨学会セミナー報告 田沼紀美子 会員

開会点鐘 紺野晴郎 会長

ロータリー・ソング

「福島ロータリークラブの歌」

ソングリーダー 渡辺正樹 会員

お客様並びに来訪ロータリアン紹介
会長あいさつ



紺野晴郎 会長

— 食 事 —

幹事報告

日比野恒夫 幹事

各委員会報告

●プログラム・ニコニコBOX小委員会

ニコニコBOX担当 江花 亮 委員長

◎本日のプログラム

閉会点鐘

紺野晴郎 会長

例会プログラムのご案内

■ 10月31日(木) 12:30～「辰巳屋」

・ゲストスピーチ「競馬予想あれこれ」

福島民報社編集局 競馬担当 高橋利明様

幹事報告 日比野恒夫 幹事



例会変更のお知らせ

- 福島北RC、10月2日の例会は、理事会承認休会のため開催されません。
- 当クラブ次週の例会は、職場訪問例会に変更しております。尚、10月例会は3週続けて変更しておりますのでご注意ください。

その他のお知らせ

- ロータリーレートは10月も変わらず1ドル100円になりますのでお知らせします。



福島ロータリークラブ マスコミ懇談会報告



広報マルチメディア・雑誌小委員会

佐藤 武彦 小委員長

福島ロータリークラブは、毎年福島市マスコミ各社との懇談会を実施しております。広報マルチメディア・雑誌小委員会はこの懇談会を担当し、小委員会の方針でもある、広く福島ロータリークラブの奉仕プロジェクトや、活動に対する認識を高めて頂く為の広報活動の一環として、本年度は9月26日(水)午前11時より、ホテル辰巳屋8F「琥珀の間」において開催しました。



出席者は、福島民報社 編集局次長兼社会部長・早川正也氏(左写真)、福島民友新聞社 報道部長・小野広司氏、NHK福島放送局 報道部長・西條孝明氏、福島テレビ 報道部長・鈴木延弘氏、テレビユー福島 報道部長・松浦五月氏。当クラブからは、紺野晴郎会長・日比野恒夫幹事はじめ13名の会員が出席しました。

懇談会は、紺野会長の挨拶からはじまり、クラブの現況説明やクラブの実施計画説明、地区大会の開催説明が成



され、これを受けてマスコミ各社から、様々なお話を伺いました。特に震災後の報道について、依然進まぬ復興・復興が、原発事故に関する報道に対して、人々の関心が低下しており、それゆえに減って行く報道と反比例し、風評被害は依然として払拭出来ていないとの事でした。

今、各社の現場では、少しでも現在の福島の状況を外に向かって発信する努力をしているとの事で、ロータリークラブの会員にも、各会員が1人でも2人でも多くの県外の知り合いの方々に、福島のPRをして頂ければ幸いである趣、ご提言頂きました。

後半は、当クラブの出席者から1人ずつご意見をいただき、和やかに懇談がされました。最後に、この懇談会を長年にわたり支えてくださっている河田亨委員からまとめとしてお話しいただき、およそ80分にわたるマスコミ懇談会を終了いたしました。

紺野晴郎会長あいさつ



鴨長明の『方丈記』の冒頭に「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。」という一節があります。ロータリーという大きな河に集う人たちは時代と共に変わり、時には水が氾濫しライオンズクラブとして別れ、しんたつロータリークラブなどの増加により河幅が広がったり、時には水が少なくなり会員増強や退会防止がテーマとして取り沙汰されています。

そして、河の周りの景色も春夏秋冬趣を変え、時代と共に変化していきます。ロータリーという河で変わらないものは世界の平和を目指すことであり、そのためにロータリアンがいろいろな事業(プログラム)を通して奉仕する事であると私は思っています。

現在ロータリーは五大奉仕として、クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・新世代奉仕を掲げ、他人への思いやりと人助けを理想(理念)としています。

今年度のRIテーマは「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を」です。第2530地区テーマは「未来の子供たちの輝く笑顔のために」、東日本大震災を忘れず福島の復興と平和な暮らしを目指します。そして、福島ロータリークラブは「楽しくロータリーを実践し、心に残る一年に」をスローガンに掲げました。福島は被災地として何が出来るか、何をなすべきかを考え、今できることを一つ一つ行動することと考えております。

まずはロータリー財団への活動資金寄付と米山記念奨学会活動資金の寄付であり、福島ロータリー版米山奨学

生として福島大学ベトナム留学生8人へ奨学金の贈呈と財団留学生の推薦です。また、双子クラブのマリキナロータリーを通じて、ポリオにかかってしまった子供たちへのリハビリ機器の贈呈を行います。

地区では新世代のインターアクト・ローターアクトとの共同奉仕として、猪苗代湖の水草回収奉仕作業と県北第一分区分の新会員セミナーの開催。

クラブでは幼稚園児へ楽器の寄付と、大宰府天満宮の御神木である梅の木の苗木を頂き学校への植樹などを考えております。何よりも大事なことは我々会員が元気にならなければ福島の復興と未来はないと考え、楽しい例会を開いております。その中でも授産施設の作品を使わせていただいたりしました。歴史と伝統のある福島ロータリークラブとして、これまで築き上げてきた諸先輩に恥じないよう、この時代に沿った流れに楽しく乗ってみたいと思っております。

大震災から2年半が過ぎ、まだ何も進んでいない感じがするのは私だけでしょうか。オリンピック開催地選考会での福島はなんだったのか。安心安全を訴えるべきなのか、風評被害で苦しんでいることをロータリーの組織を使って全世界へ強く発信すべきであると思います。

今の課題は

1. 地域社会とロータリーとの関わり方
2. ロータリーの事業に関する広報活動について
3. 米山奨学生制度について
4. 財団補助金と地域社会への貢献
5. インターアクト・ローターアクトの新世代育成について
6. 地域の他団体との関係について

そして、「福島復興への情熱をさらに燃やすために福島ロータリークラブは何ができるか」が課題です。

国際ロータリー第2530地区

国際奉仕セミナー報告

日時／2013年8月24日(土)

会場／ホテルリステル猪苗代



菅野 裕一 会員

8月24日(土)、リステル猪苗代にて開催されました国際ロータリー第2530地区国際奉仕セミナーに参加してまいりました。

内容としましては、第2530地区にて行われております青少年交換プログラムにおいて、2013-14年度の交換派遣学生の報告会、青少年支援プロジェクトにおける派遣生の帰国報告会、並びに海外からの受入学生の紹介が行われました。

今回、RCメンバーのご子息5名が参加されております

が、その中でスポンサークラブを相馬RCとする只野由香里さん(アメリカ)と、いわき常磐RCの磯貝志萌さん(ブラジル)のそれぞれから帰国報告がなされました。

また、支援プロジェクトにおいては、会津大学、県立医科大学、東日本国際大学、福島大学、日本大学の学生が7月29日～8月14日まで、オーストリアのブルガウおよびウイーンにおいて、地元のヨーロッパの学生とともにキャンプ体験、国際原子力機関への訪問、視察における報告がありました。

最後には、音楽留学支援でオーストリアのリンツ・ブルックナー音楽大学アカデミーへ、ピアニストを目指し在学中である浪江町の吉田君によるピアノ演奏の披露で締めくくられました。

来年度から2530地区においては、青少年交換は国際奉仕委員会から切り離され、新世代奉仕委員会の方に移管されることとなっております。

国際ロータリー第2530地区

米山記念奨学会委員会 セミナー報告

日時／2013年9月8日(日)

会場／郡山ビューホテル



田沼紀美子 会員

9月8日(日)、郡山ビューホテルにおきまして、「米山記念奨学会委員会セミナー」が行われました。

当クラブからは、戦略計画委員加藤義朋会員、米山記念奨学推進委員 右近八郎会員と私、田沼紀美子が出席いたしました。

ロータリー米山記念奨学会事業とは、全国のロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業です。現在までに約15,200人以上の奨学生を支援し、出身国は世界115カ国以上の地域に及んでいます。

もちろん、経済的な支援だけでなく、ロータリークラブ独自の世話クラブやカウンセラー制度による心の通った支援を行っております。日本国内では、民間最高の規模で行われておりますが、最近は寄付金額が少なくなっております。当地区におきましては、前年度18名、本年度14名、来年度は8名に、奨学生の数が減ることになりました。

現在、当地区の寄付額の順位は34地区中24番目となりました。米山記念奨学事業を推進するためにも、ガバナの方針であります「1人16,000円以上の寄付」をお願いしたいと思います。

ニコニコBOX報告

本日のニコニコBOX投入額 23件 **¥44,000** 累計 **¥714,000**

▶紺野 晴郎 会長

今日はマスコミ懇談会で多くのことを教えていただきました。これから



江花 亮 委員長

のロータリー活動に有意義な時間をとっていただきありがとうございます。感謝申し上げます。

▶日比野恒夫 幹事

マスコミ懇談会に忙しい中ありがとうございます。

▶森川 英治 会員

気がつけば9月は今回だけの出席になってしまいました。もっと真面目に出席するように努力します。

▶松浦 敬裕 会員

ついにドコモもi-phoneを発売しました。出足は好調のようで5sが予約待ちで5cは在庫があります。携帯電話業界はますます競争が激化しています。

▶渡辺 正樹 会員

9月22日(日) 福島競馬場で開催されたリレーマラソン

大会に参加してまいりました。最後にゴールされたのは70歳代のご夫妻2人が、42.195kmタスキをつないだチームで、大きな感動と共にフィナーレとなりました。来年はNHKさんや、TUFさんにも取材して欲しいなあと思いました。

▶茂田 士郎 会員

先日秋田まで行って来ました。生憎の台風18号に遭い、角館の武家屋敷では大雨でビニールの傘とコートを買って歩きました。おそらく土産よりも雨具の方が売れたのではないのでしょうか？

▶加藤 義朋 会員

マスコミ各社の皆様、貴重なご意見、ご教示ありがとうございました。各セミナーのご報告を期待します。

▶佐藤 武彦 会員

本日はマスコミ懇談会に出席いただきましてありがとうございます。

他に

有田 吉弘/安藤健次郎/氏川 守義/江花 亮/菅野 晴隆/児玉 健夫/佐藤 英典/白岩 康夫/田沼紀美子
坪井 大雄/宮本 行一/中島 健至/箱岩 偉/増子 勉/森岡 幸江



お客様並びに来訪ロタリアン

- ・福島民報社 編集局次長兼社会部部长 **はやかわ まさや 早川 正也 様**
*例会は欠席
- ・福島民友新聞社 報道部長 **おの ひろし 小野 広司 様**
- ・NHK福島放送局 放送部長 **さいじょう たかあき 西條 孝明 様**
- ・福島テレビ 報道部長 **すずき のぶひろ 鈴木 延弘 様**
- ・テレビユー福島 報道部長 **まつうら さつき 松浦 五月 様**



私のひとこと おぎゃあ献金



幡 研一 会員

「健康で生まれて欲しい」これから誕生する赤ちゃんへ、家族の誰もが持つ切なる願いです。昭和38年、鹿児島県伊佐市で産婦人科を開業していた遠矢善栄博士が近くに住む重症心身障害児の三姉妹と出会い、何とか救済してあげたいと色々手を尽くしましたが、当時一部の軽症者を除いては、重症心身障害児収容の道は固く閉ざされていました。

このような子供たちに少しでも救いの手を差し伸べたいと考え、健康な赤ちゃんを産んだお母様方と、出産に立ち会った医師や看護師たちが「愛の献金を」と発案されたのがこの運動の

始まりでした。この活動は全国に広まり、日母（日本産婦人科医会の旧称）おぎゃあ献金基金として、更には「公益財団法人日母おぎゃあ献金基金」となり、本年7月には秋篠宮紀子さまを迎え50周年記念式典が行われました。

平成24年度までの総献金額は55億円を超えました。おぎゃあ献金はこれまで全国1,153の障害児施設、および心身障害発生予防などの研究のため736の研究機関に贈呈されています。福島県でもこれまで多くの施設や研究機関が基金の贈呈を受けております。

出産数の減少とともに、献金額は年々減少してきましたが、今では協力の企業も出てきて売り上げの一部をおぎゃあ献金基金に寄付して頂いております。

日頃出産に立ち会うものとして、弱者にやさしい世の中になることを願っています。

第13回例会 職場訪問例会「新幹線総合車両センター」

■ 2013年10月3日(木) ■ 8:00 福島駅西口発・17:00着 ■ 宮城県利府町→塩釜

